

奈良・人と自然の会

<わたしたちは大和の自然を愛します>



- * 「リレー随筆・お元気ですか！」
- * 8月例会「樹木研修会」
- * 本誌新名称決定・・・字体募集！！
- * 9月行事「竜鎮溪谷」・「山の辺の道」
- * ならやまレポート・自然観察・昆虫>
- * 「ナラ枯れ」若草山で発生！
- * 自然俳句・鳥シリーズ・「ハンモッグのハンター」
- * 10・11月行事案内<例会・オプション・ならやま>
- * 今月の表紙・ペン画に寄せて

			1
			2
			3
		4	5
6	7	8	
			9
		10	11
12	13	14	
			15

「ルー」随筆 お元気ですか！

楽しかった「まほろばの路」観察会

篠原 章二



「奈良・人と自然の会」に入会させて頂いたのは、シニア自然大学講座（11期風組）を終了した5年前でした。

昆虫採集や魚とりなどに興じた幼少時代の思い出がいつも脳裏を離れず、いつか自由の身になったら、心身の健康を維持しつつ、ゆっくりと自然を楽しむことができたらいいなあ！と思いつながらの入会でした。

丁度、「近畿自然歩道・まほろばの路」自然観察会シリーズがスタートした時期で、第1回「吉野宮滝から吉野山を歩くコース」が初参加となりました。先輩の皆さんから樹木や植物、野鳥の名前を教えて頂きながらの楽しい1日でした。

その後、「大淀フルーツの里」、「二上山、屯鶴峯」などいくつかの観察会に参加しましたが、残念ながら、体調を崩し、復帰は本年4月、「笠置山古道」観察会となりました。記憶力が減退し、観察もその場限りという状況ですが、事情の許す限り少しでも観察会に参加できれば・・・と想っている今日この頃です。

今、徒然に思うこと

田中 雅英

この度、仕事の都合で休会した。仕事を続ける方がよいのか、辞めて残された人生を悠々と過ごした方がよいのか、迷いながら仕事を続けている。その分、私に残された人生ののり代は確実に減って来ている。健康に生きられている今がどんなに尊いものであるかを、これほど痛切に感じることはない。

だが、時は待ってくれない。こうしている間にも、着実に終わりへと時は進んで行く。

いつか遠くないうちに、力が尽きて我が人生の終焉の時が来よう。それを思うと戦慄さえ覚える。今となっては、残りの時間があと10年なら、その10年を可能な限り濃密に生きるほかはない。

命の終わりを思うと仕事などやっている暇はないとも思う。反面、今なお私を必要としてくれる場があるなら、そのために貴重な時間を削っても悔いはないという気も湧く。

余暇の楽しみの一つは家庭菜園。蒔いた種が芽を出し、実りを迎えてやがて朽ちて行く。野菜たちの運命をわが身に投影して、慈しみの情を注いでいる。

御縁があり

川崎 和江

かれこれ十四年前のこと、大きな双眼鏡を覗いている人に声をかけました。

その方のお誘いで鷹の渡りを見に行きました。のんびりとした気持ちで雄大な景観に浸り生かされしものの営みに感動したものです。

また、野路菊を見に行きました。今を盛りの菊に添って、でこぼこ道を歩きました。

肉眼で長元坊を見たり、枸杞の実を採って行けば海が広がってきたこと。かりそめにも、ゴルフ場の開発にともない見納めの野路菊でした。そんな懐かしい記憶が思い出されます。

この度は、川井秀夫さんとのお縁を頂き奈良・人と自然の会に入会させて頂きました。

皆さんの足手纏いになりませんように。



8月例会 積水ハウス研究所「ガーデンツリー・樹木研修会」

1、日時・天候 8月24日(火) 晴れ 猛暑

2、参加者 36名

参加者名(敬称略)

阿部・樋口・鈴木・教村・国貞・守口・高橋・森・井戸・西谷・弓場(京)・寺田(正)・勝田(均)・勝田(緑)・板橋・宮澤・池田・八木・野田・川井・豊島・菊川・古川(祐)・倉田・藤田・小森・山中・木村・森脇・岸谷(順)・岸谷(和)・川岸・吉村・八尋、
(担当幹事) 弓場(厚)・水本

近鉄高の原駅前8:40集合 時間どおり炎天下を約20分徒歩にて積水ハウス研究所に向かって出発。周りが広い緑に包まれた近代的な「積水ハウス総合住宅研究所」に着き、研究所の会議室で、講師の畑 明宏先生・自称(会社員・樹木医・自給農夫)の自己紹介から始まりました。

先生は、近所の農家から1500㎡の農地を預かり、稲作から菜園まで自分で自然との共生栽培を実践され、その体験からの話は「生態ピラミッド」の頂点に立つ私たちが、自然界の昆虫・植物に、今後どう向き合っていくべきか、という示唆を与えていただきました。また、先生の勤務先「積水ハウス」は環境と共に生きるための住宅開発コンセプトとして「5本の樹計画」の庭木は『2本は蝶のため、3本は鳥のため』を推進されており、植栽する場合は、住宅地周辺の樹木を参考に、樹木の好みの土地、地形を考慮して植栽をすれば良い結果が得られることとお話頂き、11:00からその実践と試験場である所内ガーデンの樹木観察会では、樹形の話、昆虫の働き、風の流れ等自然界の中には無駄がないこと等、肝に銘じなければならぬお話を受講いたしました。

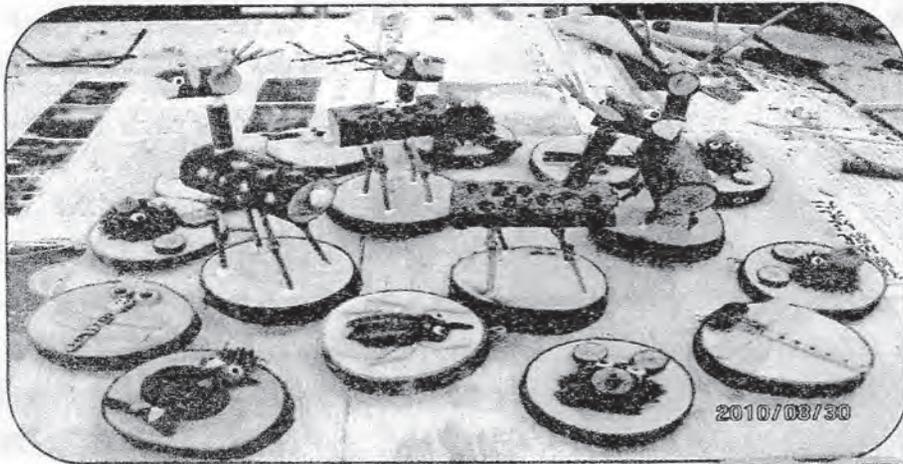
12:30から「あわさい」で「葉膳弁当」(勿論個人負担)を味わい、13:00より2班に分かれ、『住まいの夢工場』見学会では当研究所本来の機能である住宅の地震体験から、積水ハウスの耐震構造、補強材の強度試験、集積材の強度試験などを見学させていただきました。私見ですが、今日お世話になった畑先生への"せめてもの御礼は『住宅についての情報があれば、「ご紹介カード」に記入し積水ハウス宛に投函すること』であろう"と研究所を後にしました。 15:00現地解散 水本 記



工作教室 盛況に終わる

8月30日に、佐保台地域ふれあい会館で開かれた工作教室は、25名（内女性11名）の沢山の方が参加され、盛況に終わりました。シニア自然大学インプリ科の石橋晃さんのご指導で、動物ペンダント、壁掛け、鹿の置物、葉っぱのお面などを童心に返って楽しみました。いずれも、

小学校低・中学年の子供たちが、作れる物で、イベント開催の折などにも活用できそうです。「企画・教育・イベントGr」では、今後この教室を定期的で開催できればと考えています。次回は2月ごろ、「竹を使った工作特集」なども考えています。また多くの参加を期待しています。
(寺田 孝)



字体募集してまーす！！

本誌新名称 「ネイチャーなら」 に決定！

本誌は創刊100号を越えたことを機に、会報誌名を現在の会名でもある「奈良・人と自然の会」から新名称に変えることにしています。

広く会員の方々に新名称応募をお願いしたところ13名、58名称の応募がありました。会報誌編集委員会、幹事会で選考の結果『ネイチャーなら』に決定しました。『ネイチャーなら』は複数の方々か

締切り：10月末
応募先：事務局 寺田 孝

ら応募をいただきました。この他に「自然楽舎」「奈良と仲間」「自然・ゆめ・未来」「らぶ・なら」「緑土里」など変化に富んだ名称を多数いただきました。ご応募いただいた皆さま、有難うございました。

来年の1月号から使用いたしますが、字体を募集いたします。また奮ってご応募下さい。

深谷の自然景観が見事な「竜鎮溪谷から室生寺へ」報告

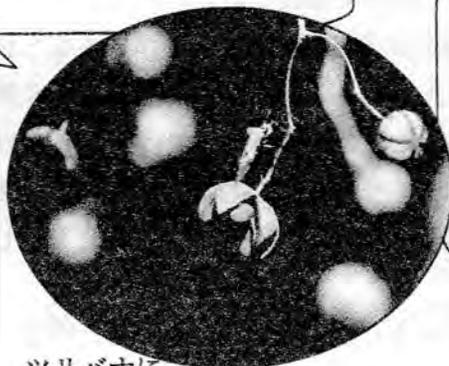
担当：寺田孝 ・ 勝田均

9月14日(火)9月例会竜鎮溪谷に14名が参加しました。前日までの酷暑が嘘みたいです。

★大野寺の百日紅にまわり飛ぶ赤とんぼ、宇陀川を亘る涼風に確かな季節の移ろいを実感する。

★訪れたことのない溪谷でかわいい花をたくさん見ることができました。

★「甌穴の水の清
さや室生秋」
残暑も強かったけど、はざ架け彼岸花もあり楽しかった



ツリバナに

偶然 カメムシの仲間が写っていました。

対岸にある竜鎮神社
普段は暗いたたずまいで本当に竜がいそうです。
また、この大きな1枚岩は水が流れ、こけで滑って渡れないのですが・・・???今日は楽々と渡れました



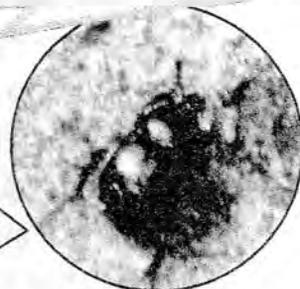
★秋の涼風に恵まれ、山歩きは楽しかった。水枯れの溪谷は残念だったが、水をたたえた豊かな姿をまた見に来たい。

★好天に恵まれ歩く距離も過度でなく、道中の景観もよく、種々の花を見ることができました。

★待ち焦がれた秋風、竜鎮の谷に吹き渡る。活き返った1日でした。

★竜鎮溪谷はさすが下界より涼しく楽しい山歩きと植物観察をさせていただきました。

★初めての訪問であつたが、非常に気持ちの良い溪谷でした。
昆虫もいろいろおりそうです。



ミドリセンチコガネムシ
ルリセンチコガネムシもいました。

★室生川上流の青い水、透き通った中のハヤ、滑らかに丸く優しく削られた岩・・・美と優しさいっぱいハイキングでした。

★酷暑が終わった秋の到来。爽やかな山気の中溪流沿いを楽しむ。竜鎮の霊気。秋草の表情を愛で、室生寺まで充実した1日を過ごした。

★夏の終わりの草花を観察しながら、溪流沿いの道を歩き、気持ちがよかったです。地すべり見楽館も親切にいただきました。

地すべり見楽館での管理人さんから、竜鎮溪谷沿いは杉・檜の植林のため山の保水力がなくなり、地滑りを起こし、水の量もすぐに減ってしまうとこのことで川の水も一定していないようです。

爽やかなハイキングみんなで楽しみました。

(文責勝田)

オプション行事 [東海自然歩道] 山の辺の道 III 三輪から長岳寺

実施日：平成22年9月18日（土曜日）

本年度の第3回オプション行事は前日までの35度を越す猛暑もやわらぎ、気持ちのよい天候に恵まれ、18名の皆さんの参加を得て実施いたしました。

この日の朝、近鉄桜井駅に集合、バスにて三輪明神参道口まで行き、大神神社（おおみわじんじゃ）—狭井神社—杵原神社—景行天皇陵—長岳寺—黒塚古墳—JR柳本駅と古代ロマンに浸りながら途中の植物観察に足をとられ、楽しい会話の中を歩きました。

狭井神社前の展望台では近くに大和三山、遠くに二上山、葛城、金剛を見渡せる絶好のロケーションで記念の集合写真を撮りましたので掲載します。

道中の畑では「なす」の見事な姿と輝きに羨ましい気持ちを抱きましたが、柿やみかんの畑では実り、色づきが悪く、土地の人も不作を嘆いておられました。今年はきっと高い果物になると思われます。最後に訪問した黒塚古墳展示館では三十三面の三角縁神獣鏡（レプリカ）が展示されており、以前「ならやま」にお越しいただき『第2ならやまの植生計画』についてご提案をいただく吉岡先生より、『柳燈会』の準備にお忙しい中、時間をさいて詳しく説明していただきました。

この日参加された会員の皆様よりアンケートに回答をいただきましたので、ご参考までに紹介させていただきます。

1. 今後の例会について都合のよい曜日、悪い曜日はありますか？

月曜(7人)火曜(5人)水曜(5人)木曜(6人)金曜(6人)土曜(6人)日曜(2人)いつでもよい(6人) あまり混まない平日がよいようです。

2. 今後の例会で行きたいところはありますか？

宇陀地方、奈良南部（十津川）、吉野、東海自然歩道を通ける、花の見られる一番よい季節等がありました。



この日の担当 弓場、板橋 (文責 板橋)

ならやまプロジェクト・レポート 22年9月

8月21日(土) 晴 参加者 27名

- ・里山の枯倒木整理 順調に進行中で現在E1地区の谷筋路に到達。10月迄に観察路と周辺の整備が完了する見通しです。
- ・蕎麦種まき そば文化クラブのメンバーが中心になってa地区約5アールに「信濃1号」を播きました。9月末には真っ白の花がならやまの景観を飾る予定です。
- ・シニア自然大学実習生 6名が参加。午前中は里山整備の実習に汗を流し、午後はメンバーとの意見交換をするなど充実した一日でした。(関連記事：9月号)

8月26日(木) 晴 参加者 23名

- ・里山整備 枯倒木整理の継続作業
- ・秋冬野菜準備 大根、大蒜畑のトラクターによる畝作りと肥料入れで準備を完了。

8月29日(日) 晴 参加者 8名

- ・ヒマワリ跡地 跡地の整備で時期が遅れましたが、景観形成も兼ねて「北早生そば」を有志のメンバーで播きました。

9月2日(木) 晴 参加者 27名

- ・c地区笹藪跡地 湿地に排水溝を設けて、水はけを良くする改良工事に着手。菜の花、蕎麦畑などへ用途が広がります。
- ・環境整備 C地区の笹の刈取り、周辺地域のゴミ回収などを全員で実施しました。
- ・里山講習会 午後、佐保台地域ふれあい会館に移動、ナラ枯れ問題の勉強、2年間の樹木調査分析の発表、さらに里山の管理の在り方について話し合いました。

9月9日(木) 晴 参加者 57名

- ・里山整備 枯倒木整備の継続作業
- ・大根の種まき 人気の大根「YRくらま

と漬物用大根を、全員参加で播きました。残暑の中、今後水遣りの苦労が続きます。

- ・梅林管理 秋に向けて梅の根の充実を図るために石灰を施しました。来年こそは花を！の願いも一緒に鋤き込みました。
- ・佐保台小5年生の田圃観察。穂の出揃った稲を前に熱心に質問し勉強しました。
- ・農具・山林用機材・工具を収納する倉庫テントを下記の木陰に設置しました。



9月13日(月) 野鳥調査 参加者6名

- ・日本野鳥の会の指導による観察会は今日で終了。なお、調査は今後も続きます。

9月16日(木) 雨/曇り 参加15名

- ・荒天に拘わらず熱心なメンバーが集合。大蒜(青森ホワイト6片)を植付け、蕪・聖護院大根、紅心大根も播いて計画通り作業完了しました。

9月17日(金) 晴 参加者18名

- ・ビオトープの調査 水生生物科10名が来訪し、当方担当と共同で調査を実施。研究科の皆さんの関心は高く、今後も継続して調査が実施される予定です。

(古川 祐司 記)

ならやま里山林花だより

守口 京子

9月17日(金)ようやく涼しい風が吹き始め、野山の散策が楽しい季節になりました。きれいな花やかわいい実があちこちに見られます。

野山…ヤブガラシ、カヤツリグサ、クズ、クサネム、キツネノマゴ、ツユクサ、タカサブロウ、ソバ、イヌタデ、ツルマメ、ヤブマメ、ヤブツルアズキ、スズメウリ(花と実)、カラスウリ(実)、チジミザサ、ヒナタノイノコズチ、ヒカゲノイノコズチ、アレチヌスビトハギ、ゲンノシヨウコ、コニシキソウ、ヨモギ、オヒシバ、メヒシバ、エノコログサ、ヤマノイモ(実)、ヨウシュヤマゴボウ(実)、ヌルデ、

ミズオオバコの実 10/9/9



ピオトープ…ミズオオバコ(花と実)、キクモ、ホタルイ、コナギ、ボントクタデ、チョウジタデ、タケトアゼナ

ミズオオバコの花は咲き終わると、水中に倒れ長さ8cmぐらいのラグビーボール型の実をつけます。実の周りにはフリル状の翼が6つ付いていてお洒落です。今年発芽した種は、かつて水田の雑草として花開いたミズオオバコの種が放置された水田の泥の中に埋まり、ヨシやガマなど背の高い草に阻まれて、ひたすら発芽の機会を待っていたのでしょう。いったい何年の月日だったのでしょね。

ならやま鳥だより

小田 久美子

9/13、6人で廻りました。2年間の最後の調査日は、まだ猛暑の名残で鳥たちも夏時間のままで寂しい締めくくになりました。この2年間、「野鳥の会奈良」代表の川瀬さんにはご指導を受け、大変お世話になりました。川瀬さんから、2年間のまとめを11月号でご報告いただきます。2つのコースで違いが出たのかご注目下さい。

なお10月からは、一年目のコースで「ならやまバード・ウォッチング」を続けたいと思っています。「調査」ではなく「バード・ウォッチング」として気軽にご参加下さい。





ならやまの皆さん、こんにちは！ ならやまのナナホシテントウです。春以来ご無沙汰しています。今年の夏は暑かったですね。ぼくたち昆虫仲間にとっても厳しかったです。ぼくたち虫にとって快適な気温は25~30℃で、35℃を超えるような気温では青息吐息で熱中症で倒れる仲間も続出しました。とくに、ぼくたちテントウムシにとっては最も大切な食料であるアブラムシが少なくなり、餓死するものもできました。

秋の王者は音楽家仲間です。調子はずれのうるさいだけの歌手のクマゼミ、アブラゼミはやっと鳴りを潜め、美声のツクツクボウシが夏を惜しんで森の中で演奏に励んでいます。草むらではウマオイ、ササキリ、クツワムシ、コオロギなどが夜の演奏会を開いています。

鳴く虫に姿がよく似ているにも関わらず歌ったり、演奏したりするのが苦手なのはバッタ達です。よい声で鳴く虫たちと区別がつかますか？ ひげ（触覚）を見てください。糸のように長ければ鳴く虫グループ、1~2cm前後の短いちよびひげならバッタグループです。鳴く虫はなかなか姿が見られませんが、バッタ仲間は草むらにいっぱいいて皆さんとも顔なじみです。もっとも体が大きくてスマートなのがショウリョウバッタで、長さが5~8cmくらいあります。体の長さが少し短くてよりスマートなのがショウリョウバッタモドキ（昔はキチキチバッタとよばれていました）です。これより少し小さくて、胴体が太くて頑丈で風格があるのはトノサマバッタです。アフリカ大陸を集団で縦横無尽に飛び回って草木の葉を丸坊主にするのはこの虫です。日本ではこれらの仲間はイネ科雑草ばかりを食べているので、菜園グループの皆さんには迷惑

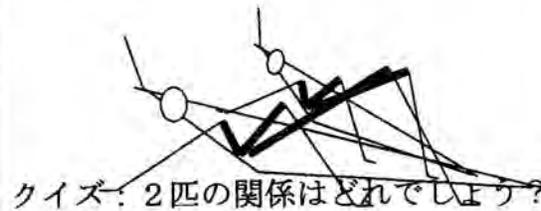
をまったくかけておりません。唯一迷惑をかけているのがイナゴです。雑草も食べますが、イネの方

が好物で、佐保台小学校の子供たちが植えたイネの葉を少しばかり失敬しています。

コオロギにもいろいろな仲間がいます。最も普通にいて大声をはりあげているのがエンマコオロギです。色が黒くて肥満しており、昆虫界ではメタボの筆頭でしょう。顔の奇抜なのはオカメコオロギとミツカドコオロギで、どちらも顔が裁断したようにまっ平らです。

テレビで紹介のあった「ハチクマがスズメバチの巣をねらう」の主人公のクロスズメバチは、ミツバチくらいの小さなハチで温和です、ならやまにいるスズメバチはもっと体が大きくて刺されると医者の門をたたかなければならないでしょう。しかし、このハチがいることは自然が豊かな証拠でもあります。

オンブバッタ



クイズ：2匹の関係はどれでしょう？
親子、夫婦、友人

チョウの仲間は少なくなってきました。ツマグロヒョウモン、イチモンジセセリ、ヤマトシジミ、モンキアゲハなどで、もうすぐ別嬪さんのアサギマダラがフジバカマの花にやってきます。楽しみに待っていてください。（答：夫婦）

若草山で発生！ 『ナラ枯れ』 について

森 英雄

『ならやま勉強会(9/2)』の議論のたたき台としてメモを作成しました。森林総合研究所の黒田氏の資料やならやまの植生調査データがベースです。今後のなら山を考える上で少しでも参考になればとの事で、若干修正して会報に載せていただきました。

1. ナラ枯れ概要

① 現象・メカニズム等

- 『ナラ枯れ』は、『カシノナガキクイムシに運ばれた糸状菌が生きたナラの細胞から栄養摂取 ⇒ナラが阻害物質を作る ⇒ナラの道管に詰まり樹液が止る ⇒ナラが枯れる』という現象

	1月	3月	5月	7月	9月	11月
・カシナガが枯死木から飛び出す			←→			
・健全なナラにアタック			←→	←→	←→	
・マスアタック(集団攻撃)				←→	←→	
・ナラが萎れ1~2週間後枯れる				←→	←→	
・処置	←---	---				←---

- *木の下部を攻撃する。
- *径10cm以下の木は攻撃され難く、大口径木・株立ちから攻撃され易い。
- *30cm以上のナラ枯れ木から数万匹が飛び出すこともある。
- *数箇所穿孔程度ではナラは枯れない。→次年度への影響少ない

② ナラ枯れ増加の主な原因

- 繁殖に適した環境の増加(大口径など)
- 枯れ倒木の放置

③ 対策・予防など

基本的には確立した予防法は見つかっていない。

2. 『なら山』のコナラについて

- 過去の植生調査結果から、なら山のコナラの状態を乱暴に推測すると、
 - ・コナラは3~4000本程度か (40本/600㎡→50000㎡)
 - ・攻撃されにくい・萌芽再生の可能性大の木の存在確立は

胸高幅(cm)	30以上	20以上	10以上	10未満
存在率(%)	20	35	25	20

- ←攻撃されにくい
- ←萌芽の可能性大
- ←???

●何をしたらいいのか？

- ①『ナラ枯れ』について情報収集・情報共有化・知見を高める。
- ②目視による確実な毎木調査はむづかしい(3000本・いっせいに)
 - 常時木をチェック。異常に気づけば写真・調査・専門家の協力依頼など
- ③外観調査(森全体): 双眼鏡など
- ④被害発生時の対処(専門家のアドバイスを受けて)
- ⑤コナラの計画伐採方法の検討

*『伐採コナラは必ず処理する必要ある』ということから考えると

- ・胸高幅30cm以上のコナラ伐採や部分的皆伐等を検討するとしてもその利用法・処理法(運搬も含め)の検討が必要であろう。
- (例)しいたけのホダ木利用でも、現状、コナラ利用は年間15本程度(この場合も、利用ホダ木径はせいぜい25cm以下)

自然俳句欄

秋茄子の蘇りたる紫紺かな

秀夫

初夏の低温。晩夏の高温。加えて虫害に悩む。
対処療法により蘇る。収穫に歓声。

西瓜丕の鱗の迷彩戦さある

秀夫

西瓜畑、鴉の襲来に無残。動くもの強し。動かざる
もの悲し。自衛策、来年の課題。

たにかせ
竜鎮の谿風は秋水の青

秀夫

9月例会。室生・深谷川の溪流沿いを歩く。
酷暑も漸く去り、ご機嫌。

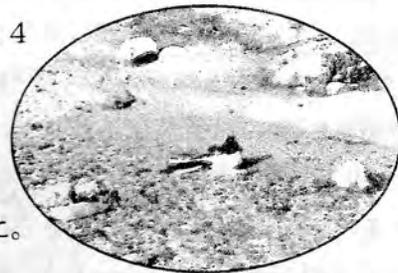
秋茄子の畑が照つて八咫鳥

良子

結社の人選作。鄙びた村はずれの畑だろうか。
鳥は悪のイメージが強いが、「八咫鳥」の名詞が
明るい茄子畑を想像させる。

ちいまじょうほう

★【斑鳩より】9月7日カワセミに出会いましたしかも4羽も。この2羽のカワセミは時にはもつれあったり、じっとしていたりと2羽で長い時間いました。何をしていたのでしょうか?たっぷり写真も写せました。
20日竜田公園にヒガンバナが咲いているのを見ました。



セグロセキレイの水浴「あついなあ！」



ジョウビタキ

小田 久美子

ならやまでお馴染みのジョウビタキの姿を見たのは、調査記録では2/9が最後でした。

その年の秋を迎えても彼の姿を見かけないまま季節が移ろい、いつしか彼のことを忘れてしまっていました。この長い猛暑のあと「小さな秋」と共に彼を思い出し、昨年の記録を見直したのですが、やっぱり記録はゼロでした……。越冬地の東南アジアの環境が激変したのでしょうか、往復の渡りの途中でアクシデン

トがあったのでしょうか。毎年、当たり前私たちに私たちの回りに現れるジョウビタキ。果たして今年は同じ彼が現れるのか、違う固体にバトンされるのか。スズメ程の小さい体で長い苦難の旅のあとやっと辿り着いた「ならやま」なのです。お辞儀をしながら畑の周りで「ヒッ! カカ!」と挨拶をして回っていたら「良く帰ってきたね」と挨拶を返してやって下さい。



(男) おい!! ジョロウグモ涼しそうだな。

木陰の樹間で優雅なもんじゃないか。

(蜘蛛) 俺に話してんのか? なんでそんな名前ですら呼ぶんだ。

(男) はっきり知らんがあんたらが“何”する時に「馬乗り型」なのでピッタリかと思うけど。

(蜘蛛) 恥ずかしいところをじろじろ見るなよ。ところで、何の用だい。

(男) 家の物干しでも1日中日照りの中で逆さになって10匹位頑張ってるけど、ここは極楽だろう。

(蜘蛛) なあに、大物はそんなに獲れないし1mm~3mm位の小物が多く、楽じゃないぞ。

(男) あんたらは眼が8個ある割に良く見えなくてその代り足には触毛や聴毛が発達していてハンターが上手とのこと。ところで、食べカスがぶら下がってるが、もう少し綺麗にしたらどうなんだい。

(蜘蛛) 言われなくても毎晩面の1/2~1/3は張り直してるさ。糸はたんぱく質だから、食べてリサイクルするのさ。



ハンモッグのハンター

9月2日ならやま笹刈り

竹本雅昭

(男) 素晴らしい網には感嘆するよ。秋の風物詩として君らを見てる人間だ。イソウロウ蜘蛛には注意して子育てしてくれよ。

(蜘蛛) ありがとうよ。邪魔だから早く行ってくれ。

行事案内

※原則：前日午後7時前のNHK天気予報で降水確率（午前）60%以上の場合は中止※

『ならやま里山林プロジェクト10・11月の予定』

このプロジェクトは三井物産環境基金の助成を受けています

場所 奈良市奈良阪町・佐紀町の県有林（JR平城山駅下車徒歩10分）
 —「ならやま会館」前の道路（ならやま大通り）の南側に広がる林地—

10月

11月

- 10月 7日（木） 活動日
- 10月 9日（土） （臨時活動日）菜の花プロジェクト
- 10月14日（木） （臨時山の日）
- 10月16日（土） 公開いもほり大会
- 10月21日（木） 活動日（稲刈り）
- 10月24日（日） 黒髪山自然塾との協働イベント「いもほり
- 10月28日（木） 活動日（脱穀）
実習生受け入れ
- 10月31日（日） 雨天予備日

- 11月 4日（木） 活動日
- 11月11日（木） 活動日
- 11月18日（木） （臨時山の日）
- 11月20日（土） 活動日・実習生受け入れ
- 11月25日（木） 活動日
- 11月30日（火） 雨天予備日



ならやま自転車道のマーク

- 集合 現地ベースキャンプ地 9時 終了予定 3時
- 交通 ①近鉄奈良駅 バス13乗場 8:23発 高の原行（平日・土曜）
 ②近鉄高の原駅 バス1番乗場 8:32発 JR奈良行（平日）
 8:30発 JR奈良行（土曜）

①、②とも佐保台西口、または平城大橋で下車 徒歩約7分

携行品など・弁当、飲み物、軍手（作業用具は現地にて用意）

*環境保護のため、コップ・箸・椀などは各自でご持参下さい。

- 活動内容
- ・里山整備、環境整備、花木植栽等の景観形成、植生調査、椎茸作り
 - ・復元した田畑での「旬の野菜・健康野菜の有機栽培」、堆肥作り、土作り
 - ・「市街地にある里山」を体験する各種公開イベント

連絡先： 担当幹事 古川祐司 鈴木

★ならやま・バードウォッチング 新装オープン!!

☆日 時：10月11日(月) 9:00集合 <毎月第2月曜日>

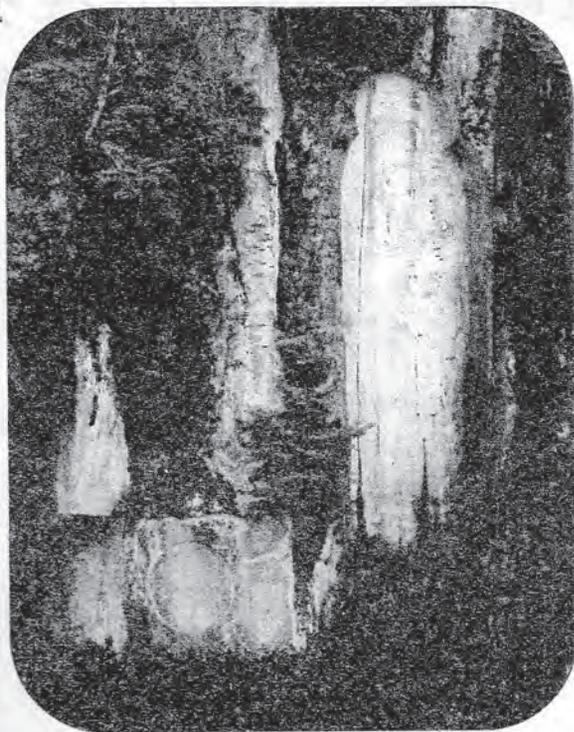
★集合場所：ならやま駐車場

☆コース等：駐車場で30分の観察後、鳥観台まで歩きます。そこで30分観察して11時過ぎ駐車場へ戻ります。その後希望があれば近くを廻ります。

★参加方法：9時から30分だけでも、また11時からでも自由です。

☆小雨決行：判断の難しい時は担当者に問い合わせてください。中止の時は次週に順延。

★担当者：小田
菊川



【室生大野寺前 宇陀川の対岸の弥勒磨崖仏】

【10月例会 ご案内】

ならやま周辺の自然と文化遺跡

—ならやまと佐紀盾列古墳群を歩く—

奈良の自然や文化は、歴史を知ることでもっともっと興味深いものとなります。今回は、平城遷都1300年に因んで、奈良時代の歴史を紐解きながら、奈良坂から佐紀・佐保路を訪ねたいと思います。秋たけなわの一日をご一緒に楽しみませんか。

日時：10月11日(月) 午前9時集合

集合場所：近鉄奈良駅 行基像前

コース：(バス) 奈良坂下車—奈良豆比古神社—元明天皇陵—黒髪神社
—ならやま BC—不退寺—磐之媛陵—平城天皇陵—瓢箪山古墳
—日葉酢媛陵—成務天皇陵—孝謙天皇陵—近鉄西大寺駅

距離：なだらかな丘陵をめぐって 歩行 約10キロ

担当：古川 祐司 川井 秀夫

【10月オプション】 曾爾高原といえば・・・ すすき！秋と言えば・・・

曾爾高原 すすきです!!!

東海道自然歩道を歩きませんか。今回は、秋期の期間のみ運転される、曾爾高原駅までバスで登ります。時間はたっぷり、ススキと湿原植物を堪能して下さい。

日 時： 10月30日(土)

集 合： 近鉄 名張駅前 三重交通バス乗り場 9時15分

バス：曾爾高原行き 9時30分発 曾爾高原10時17分着 (810円)

コース概略：(東海道自然歩道) 歩行距離 約4.7km (実歩行時間1時間40分)

曾爾高原バス停(準備体操) 10時30分発 → 亀山 → 亀山峠(昼食)

→ くろそ山荘 → 池の平湿原 → 中太郎生 (バス) → 近鉄名張

*中太郎生バス： 中太郎生 → 名張駅前 (790円)

13:05 13:54

14:21 15:10

*近鉄電車時刻：(土曜) 参考(9月現在)

☆ 大和西大寺7:56発 橿原神宮前行(急行) 8:17着大和八木 8:34発 青山町行(急行)

9:07着名張

☆ 大阪上本町7:53発 青山町行(急行) 9:07着名張

担 当： 境 寛 ・ 木村 裕

<11月の予定>

11月例会「みたらい溪谷から洞川」1泊旅行



奥深い吉野・天川の紅葉と次々に現れる滝を愛でながら2時間半のハイキングを楽しみ、洞川温泉の老舗旅館に一泊してゆっくり温泉を満喫し、会員の交流を図ります。

日 時： 11月8日(月)～9日(火)

集合場所： 近鉄下市口駅 10:03集合 バス→洞川温泉行き 10:17分発

宿 泊： あたらしや旅館 吉野郡天川村洞川215 ☎0747-64-0045

予 算： 18000円位

申し込み締め切り： 10月20日(水)

担当及び申し込み： 西谷

E

豊島 主

尚詳細は会報誌11月号に掲載いたします。

平成 22 年 9 月度幹事会報告

日 時 : 平成 22 年 9 月 7 日 (火) 18:00~20:10

場 所 : 奈良市 中部公民館

出席者 : 幹事 17 名 顧問 計 18 名

- (1) 8 月末会員数 134 名 (休会 2 名、新人 1 名)
- (2) 「ならやま野鳥調査」は、今後「ならやまバード・ウォッチング」として継続。
- (3) 県、市などからの各種依頼要請
 - ①生駒市・みどりの学校 講演 (9/18) ②ならコープ中間報告 (10/18) ③全国育樹祭イベント出展 (11/3) ④近畿地区知事会 景観形成活動等の事例報告会 (11/16) ⑤来年度全国育樹祭 (奈良開催) イベント参加
- (4) 会報誌新名称「ネイチャーなら」に決定。来年新年号より使用。
- (5) 第 2 ならやま (仮称) 活動 プロジェクトチーム発足 (リーダー鈴木、事務局藤田) し、検討委員会を作る。10 月より活動開始予定。
- (6) 森林・環境教育 (正規授業) 協力実施 佐保台小学校 6 年生

<表紙のペン画によせて>

境 寛

今年は、平城遷都 1300 年で奈良の古寺、旧跡は何とも賑やかなことです。古代史ブームも相まって、明日香も大変、賑やかです。表紙の絵は、この明日香岡寺への参道の茶店です。大変古びた茶店で、石舞台周辺や国道沿いとは違ってほっとする光景です。これからはきっと店先に柿が無造作に盛られていることでしょう。

編集後記 : *【お詫びと訂正】: 「リレー随筆・お元気ですか!」9 月号で、佐藤良子さんの「ありがとう」の 10 行目、正しくは「これは吉野 洋の祝婚歌である。」を結婚歌と誤って掲載いたしました。お詫びして訂正いたします。
* 当会報誌の新名称が決まりました。続いてこれにふさわしい字体を募っています。ご応募ください。* 会報発送作業・編集会議日 : 11 月号の作業は 10 月 25 日(月)午前 9 時から「西奈良ボランティアセンター」で行います。毎回多数の方のご協力有難うございます。作業後編集会議にもご参加を!

編集担当 : 勝田 均

TEL&FAX

【当会の行事における傷害事故等については個人負担とし、当会は賠償等一切の責任は負いません】
奈良・人と自然の会事務所

会長 阿部 和生